

先人たちの声

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

社会福祉法人薫風会 特別養護老人ホーム

風の家

入所140名/短期入所10名
北九州市八幡西区大字本城3378-1

平成14年4月に開設。北九州市内で最も規模が大きく、子どもから大人まで、新たな福祉のニーズに応えたサービスを幅広く展開している。



北九州モデル導入の主な取組内容

- ・北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター（以下、センター）による業務量調査とその報告を受け、施設自ら全職員を対象とした業務に関するアンケート調査を実施。その結果、**記録の標準化と効率化、間接業務の負担軽減、休憩時間の見直し**を課題とし、センターの助言を交えながら具体的な取組内容を計画。
- ・センター仲介の下、記録ソフト取扱業者と意見交換を重ね、**記録内容の見直しや記録ソフトの活用拡大**を進めた。また、センターとの定期的な話し合いを通じて、**申し送りや休憩時間の標準化、備品の購入方法等の見直し**を実施。
- ・現場にて試行を繰り返し、**記録時間の短縮、時間外業務の削減、間接業務の省力化**といった効果を得た。

介護課長
川崎直美さん



介護副主任
林内麻依さん

北九州モデル導入の流れ (センターによる伴走支援)

		R4								R5		
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
準備	キックオフミーティングと今後の流れの共有	■	■	■	■							
調査	センターによる業務量調査と結果報告会					■	■	■				
検討	課題抽出と解決策立案に向けた意見交換							■	■			
実践	センター仲介による業者との意見交換/取組の試行/振り返り							■	■	■	■	

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

今後さらに介護現場の人手が不足したとしても、**職員の負担は増やしたくない、そしてなによりケアの質を下げることなく利用者の「暮らし」を大切に**し続けたいと考えていました。そんな折、北九州モデルの話があり、実際に大変な状況になってから動き始めるのではなく、今のうちから**先を見越して行動しなければ**と思い取組に参加することにしました。

5 取組にあたり壁になったことは？

今までの流れを変える、新しいことにチャレンジすること自体が大きな壁でした。なぜなら**時代の流れやニーズは変化している**一方で、職員のアップデートがなかなか追いついていない現状があったからです。そこで、**まずはやってみよう、そしてどんな結果も次のステップに必要な糧になる**という意識を皆で共有して挑みました。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

まずは、管理職会議の場で**北九州モデルについて取り組む目的を明示**しました。そして副主任らを中心に**現場職員と共有**していきました。また、**全職員を対象としたアンケート**の中でも**北九州モデルの説明や取り組む目的を明示**して、さらには**現場の意見も出してもらうこと**で、取組への合意形成を図ることができました。

6 今回の取組で役に立ったことは？

これまで「この業務が負担になっている」と**漠然と捉えていた状況**を、業務量調査によって**見える化したこと**で、**客観的に業務を見直すこと**ができました。その結果、業務負担の軽減はもちろん、部署や職種を超えた**協業の拡大**、そして何より**利用者と過ごす時間の増加**といった効果が得られ、**さらなる展開へとすすめるきっかけ**になりました。

3 多職種をどう巻き込みましたか？

当施設は規模が大きいので、施設全体で一斉に取組を始めるのではなく、**モデルとなるブロック（2ユニット）**を定めて**段階的に**進めていきました。それによって、そのブロックに関わる看護師、介護福祉士、作業療法士、事務職員、営繕職員などといった多職種が、無理なく**普段の活動の中で自然と関わり合いを持ちながら**取組を進めていくことができました。

7 新たな取組など、今後の方針は？

今回の取組で省力化できた備品の補充や環境整備など、**介護等の専門的スキルを必要としない業務の負担軽減**をさらに図っていかうと考えています。まずは引き続き業務内容を見直しつつ、新たに「**介護助手の導入**」をすすめていく方針です。それに向けて、現在は他施設での取組事例や導入方法について情報収集を行っています。

4 不平不満が出たとき、どのように対応しましたか？

最初の1～2週間は「やりにくい」「前の方が良かった」等の声があがりましたが、随時**その原因を明らかにし、改善を重ねていくこと**で、**1か月程で成功体験が増えて**いきました。人員とハード面で**最も負担が大きいブロックから取組んだ**ことも功を奏し、このブロックでできたのだから**他のブロックもできるはず**という**雰囲気**を作ることができました。

8 これから取り組む施設へのアドバイスを！

現状が**本当に利用者やスタッフのためになっているか**、ただの習慣になっていないか**俯瞰的に捉える**ことが大切だと思います。また、**小さなことからまずはやってみる**。そして、うまくいったら次へと**成功体験を重ねる**ことで取組の継続・拡大が図れると思います。何よりどのような結果も**ポジティブに捉える視点**で臨んでいただければと思います。